

関連年表

		フィンセント・ファン・ゴッホ年譜	テオ	ヨー	ヨー・ファン・ゴッホ=ボンゲル年譜 主な出来事／主な美術の動き	フィンセント・ウィレム
1853	0歳	3月30日、オランダ南部のズンデルトにて、牧師テオドルス・ファン・ゴッホとその妻アンナのあいだに、フィンセント・ファン・ゴッホが生まれる。			クリミア戦争 (−56年)	
1857	4歳	5月1日、弟テオが生まれる。	0歳			
1861	8歳	ズンデルトの小学校に通う。	4歳		アメリカ南北戦争 (−65年)	
1862	9歳	3月、妹ウィレミーンが生まれる。	5歳	0歳	10月4日、ヨー (ヨハンナ)・ヘジナ・ボンゲルがアムステルダムで生まれる。父は保険代理業を営むヘンドリック・クリスティアーン・ボンゲル。	
1863	10歳		6歳	1歳	9月、一家で中部ユトレヒト州のザイストに引っ越す。	
1865	12歳		8歳	3歳	一家で再びアムステルダムに引っ越す。父は国際海運の日刊紙『ゼー・ポスト』の編集発行人となる。	
1866	13歳	ティルブルフの中等学校に入学 (68年に中退)。	9歳	4歳		
1868	15歳		11歳	6歳	この頃、地元の小学校に入学する。卒業後は「フランス学校」で学ぶ。明治維新	
1869	16歳	7月、美術商グーピル商会のハーグ支店に見習いとして雇われる。	12歳	7歳	スエズ運河開通	
1872	19歳	9月、現存するテオ宛ての最初の手紙が書かれる。	15歳	10歳		
1873	20歳	1月、テオが同じグーピル商会で働き始める。 5月、ロンドン支店に転勤する。	16歳	11歳	ウィーン万国博覧会	
1874	21歳	10–12月、一時的にパリ本店に勤める。	17歳	12歳	第1回印象派展	
1875	22歳	5月、パリ本店に移り、モンマルトルに住む。	18歳	13歳		
1876	23歳	4月、グーピル商会を解雇される。補助教員の職を得て、イギリスに渡る。	19歳	14歳	北海運河完成	
1877	24歳	1月、ドルドレヒトの書店で仕事を得る。 5月、神学を学ぶためにアムステルダムに移る。	20歳	15歳	アムステルダムの高等市民学校に入学する。	
1878	25歳	8月、ブリュッセルに行き、福音伝道師の訓練を受ける。	21歳	16歳		
1879	26歳	2–7月、ベルギーの炭鉱地ボリナージュで伝道師を務める。	22歳	17歳	兄アンドリースがヘオ・ウェーリ商会に職を得てパリで暮らし始め、彼から手紙でパリでの暮らしを詳細に聞く。	
1880	27歳	8月、テオの勧めにより、画家になることを決意する。 12月、ブリュッセルの王立美術アカデミーの素描コースに登録する。	23歳	18歳	優秀な成績で高等市民学校を卒業する。83年までに英語と文学に関する3つの教員資格を取得する。	
1881	28歳	2月、テオがモンマルトル大通り支店の支店長となり、生活費の送金を受けるようになる。 4月、両親の住むエッテンに移る。 11–12月、ハーグに住む画家アントン・マウフェから絵画の手ほどきを受ける。 12月、父親と衝突し、ハーグに移り住む。	24歳	19歳		
1882	29歳	この頃から定期的にテオに素描を送るようになる。	25歳	20歳		
1883	30歳	9月、ドレンテに移り住む。 12月、ニューネンに移り、両親のもとで暮らし始める。	26歳	21歳	6–9月、ロンドンに滞在し、大英博物館の図書室で勉学に励む。	
1884	31歳		27歳	22歳	6月、『デ・アムステルダマー』紙の依頼で翻訳の仕事始める。 9月、女子寄宿学校で英語教師として働き始める。	
1885	32歳	3月、父テオドルスが死去する。 5月、《ジャガイモを食べる人々》をめぐり、ファン・ラッパルトと喧嘩する。 11月、アントウェルペンに移る。	28歳	23歳	解剖学助手であったエデュアルト・ストンプフと恋仲になる。 8月、兄アンドリースの紹介で、アムステルダムを訪ねてきたテオと出会う。 12月、女子寄宿学校の職を辞す。	
1886	33歳	2月末頃、テオを頼ってパリに移り住む。 3–6月、フェルナン・コルモンのアトリエで学ぶ。 6月、テオとともにルビック通りに引っ越す。	29歳	24歳	5月、ニューワー・アムステル (今のアムステルフェーン) のアンナ・フォンデル学院で教鞭を執る。 最後となる第8回印象派展開催	
1887	34歳	11–12月、大衆食堂「デュ・シャレ」で展覧会を開く。おそらくここでポール・ゴーガンと出会う。	30歳	25歳	7月、テオのプロポーズを断る。 12月、ユトレヒトの高等市民学校で、英語と文学の臨時代理講師に採用される。	
1888	35歳	2月、パリを離れ南仏に向かい、アルルに居を定める。 3–5月、第4回独立芸術家協会の展示 (アンデパンダン展、パリ) に3点を出品。 10–12月、ゴーガンと共同生活を送る。 12月、最初の激しい発作を起こして左耳を切り、アルルの病院に入院。	31歳	26歳	秋までにストンプフと破局する。 12月、パリ滞在中、テオと再会し、彼の求婚に応じる。	
1889	36歳	5月、サン＝レミのサン＝ポール＝ド＝モーズール療養院に自ら入院する。 9–10月、第5回アンデパンダン展 (パリ) に2点を出品する。	32歳	27歳	4月、アムステルダムでテオと結婚し、夫妻はパリに住み始める。 パリ万国博覧会、エッフェル塔完成	
1890	37歳	1–2月、第7回二十人会展 (ブリュッセル) に招待され、6点を展示する。 1月、美術評論家アルベール・オーリエがファン・ゴッホ評を発表する。 3–4月、第6回アンデパンダン展 (パリ) にテオが選んだ10点を出品する。 5月、サン＝レミを出て、オーヴェール＝シュール＝オワーズに移る。途中パリではテオの家に滞在。 7月27日、自らを撃ち、29日、テオに看取られながら死去。翌日オーヴェールの墓地に埋葬される。	33歳	28歳	1月31日、テオとのあいだにフィンセント・ウィレム・ファン・ゴッホが生まれる。 5月、息子の誕生祝いに義兄フィンセント・ファン・ゴッホから《花咲くアーモンドの木の枝》が贈られる。初めて義兄と対面する。 10月、テオが心身の体調を崩して入院する。 11月、テオをユトレヒトの精神療養施設へ転院させ、自らも息子とオランダに移る。 12月、ブリュッセルでのファン・ゴッホ追悼展のために、素描を選んで送ることとする。テオの代わりに行った初めての仕事となった。	0歳

	ファン・ゴッホの評価・受容に関する出来事	ヨー	ヨー・ファン・ゴッホ=ボンゲル年譜 主な出来事／主な美術の動き	フィンセント・ウィレム
1891	2-3月、第8回二十人会展(ブリュッセル)で追悼展が開催される。 3-4月、第7回アンデパンダン展(パリ)で回顧展示が行われる。 12月、ハーグの芸術家協会ブルクリ・スタジオにてオランダで初めて作品が展示される。	29歳	1月25日、テオが33歳で死去する。4日後にユトレヒトの墓地に埋葬される。 2月、ベルナールをはじめ、回顧展の企画や出品の依頼が舞い込むようになり、対応を始める。 4月、オランダのブッスムにある「ヴィラ・ヘルマ」に母子で引っ越し、翌月から下宿屋を始める。	1歳
1892	5-6月、ハーグ芸術協会で展示、好評を得る。 12月-翌年2月、パノラマ館(アムステルダム)で大規模な個展が開催される。	30歳	この頃、書簡集の出版に向けて手紙の整理に着手する。	2歳
1893	4月、ベルナールが『メルキュール・ド・フランス』誌に手紙を掲載する(-95年、97年)。	31歳		3歳
1894		32歳	社会民主労働党(SDAP)が結成され、まもなく入党する。	4歳
1896	2-3月、フローニンゲン、ロッテルダムで個展が開催される。 12月-翌年2月、ヴォラールの画廊でパリ最大の個展が開催される。	34歳	社会問題に熱心に取り組む『クロニク』誌のために、翻訳を始める。	6歳
1897		35歳	5月、「全国女性労働展示会協会」のブッスム支部委員となる。	7歳
1898	1-2月、美術評論家ジュリアン・ルクレールにより小展示が開催される。	36歳	ルクレールと知り合い、以後展覧会に協力する。	8歳
1900	ユリウス・マイヤー=グレーフェが『ディー・インゼル』誌にファン・ゴッホ論を発表する。	38歳	10月-翌年5月、フェミニストの機関誌『ベラング・エン・リヒト』に書評を寄稿する。	10歳
1901	3月、ベルネーム=ジュヌ画廊(パリ)で71点の作品が集められた個展が開催される。 12月-翌年1月、ベルリンの画商パウル・カッシーラーがドイツで初めて個展を開催する。	39歳	8月、ブッスムで画家・ヨハン・コーヘン=ホッスハルクと結婚する。 オランダ普通選挙委員会のブッスム支部の書記となる。	11歳
1902	7月、初めて作品が美術館に収蔵される(フォルクヴァング美術館)。	40歳		12歳
1903	ボイマンス美術館(ロッテルダム)、アテネウム美術館(ヘルシンキ)が、国公立の美術館として初めて作品を収蔵する。	41歳	ボイマンス美術館に《ニューネン近くのポプラ並木》を売却する。 サロン・ドートンヌ設立	13歳
1904	5月、マイヤー=グレーフェの『現代美術の発展の歴史』が出版され、ファン・ゴッホはゴーガン、ポール・セザンヌとともに現代美術の基礎を築いた画家として紹介される。	42歳	年明け、アムステルダムの病院に入院する。 9月、一家でアムステルダムに引っ越す。	14歳
1905	ファン・ラッパルト宛ての手紙の抜粋が月刊誌『視覚芸術と工芸の批評』に掲載される。 春、ヨーが30点の出品したカッシーラー画廊の展示でドイツでようやく好評を得る。	43歳	6月、テオの再埋葬を見据え、オーヴェールの墓地に区画と永代権を購入する。 7-8月、アムステルダム市立美術館の展示室を借り、480点を超える大規模なファン・ゴッホ展を開催する。 アムステルダム社会民主党女性クラブの結成に携わる。 フォーヴィスム登場、ブリュッケ結成	15歳
1907		45歳	4月29日、義母(ファン・ゴッホ兄弟の実母)が死去。 9月、息子フィンセント・ウィレムがデルフト工科大学に入学、機械工学を学ぶ。	17歳
1908	1月、ベルネーム=ジュヌ画廊(パリ)が100点ほどの大規模な個展を開催する。	46歳	夏、オランダの画商ヨハネス・デ・ボワと知り合う。 キュビズム登場	18歳
1910	妹リースが『フィンセント・ファン・ゴッホに関する個人的な回想』を出版。 マイヤー=グレーフェがドイツ語で初めての伝記を出版する。	48歳	5月、ラーレンのサマーハウス「ラントハイス」が完成する。 11月、「マネとポスト印象派」展に作品を送る。	20歳
1911	ヴォラールがベルナール宛ての書簡集を出版する。 フランスの国立美術館に初めて作品が収蔵される。	49歳	1月、フィンセント・ウィレムが21歳となり成人し、テオの遺産を正式に相続する。 青騎士結成	21歳
1912	5-9月、前衛美術が大規模に紹介されたケルンの第4回ゾンダーブント国際美術展で、125点が展示される。 11月、日本の雑誌『白樺』でファン・ゴッホ特集が組まれ、手紙や作品図版が掲載される。	50歳	5月18日、ヨハンが胸膜炎から体調を悪化させ、アムステルダムで死去する。	22歳
1913	7月、ヘレーネ・クレラー=ミュラーが約150点のコレクションの公開を始める(ハーグ)。	51歳		23歳
1914	テオ宛ての手紙をまとめた最初の書簡集が出版される。	52歳	4月、テオの墓をオーヴェールに移す。 6月、書簡集の第1巻を出版。年内に全3巻が発売される。 第一次世界大戦(-18年)	24歳
1915		53歳	1月、フィンセント・ウィレムがヨシナ・ウィバウトと結婚する。 3月、平和を求める国際社会主義女性会議に出席するため、ベルンを訪れる。	25歳

	ファン・ゴッホの評価・受容に関する出来事	ヨー	ヨー・ファン・ゴッホ=ボンゲル年譜 主な出来事／主な美術の動き	フィンセント・ウィレム
1916	テオドール・デュレが評伝『フィンセント・ファン・ゴッホ』を出版する。	54歳	8月、前年に渡米した息子夫妻を訪ねて渡米 (19年帰国)。	26歳
1918		56歳	この頃、パーキンソン病の最初の兆候が見られ、口述筆記に頼るようになる。	28歳
1920	10月、モントロス・ギャラリー (ニューヨーク) がアメリカで初めての回顧展を開催する。	58歳	国際連盟発足	30歳
1921	マイヤー=グレーフェによる『フィンセント』が出版される。	59歳	5月、ニューヨークのメトロポリタン美術館で開催された「印象派とポスト印象派」にフィンセント・ウィレムとともに4点を出品する。	31歳
1923	12月、レスター・ギャラリー (ロンドン) でイギリスで初めての個展が開催される。	61歳	関東大震災	33歳
1924	ロンドンのナショナル・ギャラリーに《ヒマワリ》《ファン・ゴッホの椅子》が所蔵される。	62歳	フィンセント・ウィレムとともにロンドンのナショナル・ギャラリーとの交渉にあたり、2点を売却する。	34歳
1925			9月2日、数日前から体調が悪化し、62歳で死去。	35歳
1927	ヨーが編集した書簡集の2巻分の英訳が出版される。 12月、J・B・ド・ラ・ファイユによるカタログ・レゾネ (総作品目録) の第1巻が出版される。			37歳
1930	ド・ラ・ファイユが約100点を掲載した『ファン・ゴッホの贋作』を出版する。			40歳
1931	フィンセント・ウィレムがアムステルダム市立美術館にコレクションの大部分を貸し出す。			41歳
1949	フィンセント・ウィレムが最初のフィンセント・ファン・ゴッホ財団を設立する。			59歳
1960	フィンセント・ウィレムが改めてフィンセント・ファン・ゴッホ財団を設立する。			70歳
1962	ファン・ゴッホ家のコレクションがフィンセント・ファン・ゴッホ財団に移管される。			72歳
1963	建築家ヘリット・リートフェルトがファン・ゴッホのための美術館の設計を始める。			73歳
1973	国立フィンセント・ファン・ゴッホ美術館 (94年に民営化されファン・ゴッホ美術館となる) が開館する。			83歳
1978	1月28日、フィンセント・ウィレムが死去する。			88歳
1999	ファン・ゴッホ美術館に黒川紀章による新たな展示棟が開館する。			